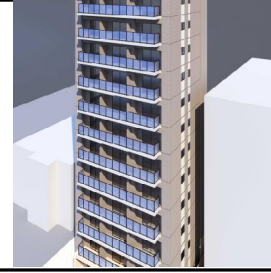


CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊中市曽根西町3丁目 計画	階数	地上14F
建設地	大阪府豊中市曽根西町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	52 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年5月24日
敷地面積	617 m ²	作成者	株式会社日企設計 取締役 森田俊和
建築面積	208 m ²	確認日	2024年5月24日
延床面積	2,366 m ²	確認者	株式会社日企設計 取締役 森田俊和



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用し、室内環境への配慮を行っている。 外構にはできる限りの緑地を設けている。		その他 特になし
Q1 室内環境 開口部遮音にT-2以上の性能を採用している。	Q2 サービス性能 情報社会に対応しCat5eを導入している。	Q3 室外環境(敷地内) 地域性・アメニティへの配慮に関して標準的な取り組みを行っている。
LR1 エネルギー LED照明を採用。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 光害対策を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)豊中市曽根西町3丁目 計画					
建設地		大阪府豊中市曽根西町					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				B+	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				3	
③	断熱性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	1 2 3 4 5 6 7		4	
④	エネルギー消費性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	★☆☆☆☆		1 評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.2	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							